

## テモテ第一 6 : 11-21

「イエスがもうすぐ再臨されると確信して生きる」

6:11 しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。

6:12 信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。

6:13 私は、すべてのものにいのちを与える神と、ポンテオ・ピラトに対してすばらしい告白をもってあかしされたキリスト・イエスとの御前で、あなたに命じます。

6:14 私たちの主イエス・キリストの現れの時まで、あなたは命令を守り、傷のない、非難されるところのない者でありなさい。

6:15 その現れを、神はご自分の良しとする時に示してくださいませ。神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、

6:16 ただひとり死のない方であり、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることのできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のものです。アーメン。

6:17 この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。

6:18 また、人の益を計り、良い行いに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。

6:19 また、まことのいのちを得るために、未来に備えて良い基礎を自分自身のために築き上げるように。

6:20 テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ話、また、まちがって「靈知」と呼ばれる反対論を避けなさい。

6:21 これを公然と主張したある人たちは、信仰からはずれてしまいました。恵みが、あなたがたとともにありますように。

### はじめに

テモテ第一の手紙の最後の個所にたどり着きました。

このシリーズは 2018 年 9 月から始まり、パウロが若い牧師テモテに送った手紙を系統立てて学んできました。

パウロがこの手紙を書いたのは、偽教師たちが教会の指導的立場におり、人々を間違った方向へと導いていたからです。

偽教師たちは、イエス・キリストの教えから離れ、他のことを教えていました。

これにより、教会内での不和や口論など、深刻な問題が起こっていました。

パウロは、教会内にしっかりとした指導体制を敷くことをテモテに望みました。

それで、3 章では長老や執事の役割や資質について語ったのです。

また、創世記のアダムとエバの話を根拠に、女性が男性に対して権威をふるってはいけないとも教えました。

その個所を学んだあと、シリーズ説教を一度休んで、女性に関する聖書全体の教えについて学んだのを覚えている人もいるでしょう。

このメッセージは、私の意見ではなく、神のみことばの真理です。

そのときのメッセージをもう一度読んでみてください。そして、そのことについて祈り、もう一度読んでみてください。

真理を読み違えた、または誤解した人がいるようですので、お願いします。

パウロがテモテに送った手紙で取り上げたテーマについて、私たちが自分の考えに固執していると、聖書の教える内容が不快だと感じる可能性があります。

神のみことばは常に私たちのためになります。私たちの地上の人生のために神が備えてくださった最善のみことばが教えてくれます。

私たちは、誰が私たちの思考に影響を与えているか、考えなくてはなりません。

それは、神のみことばでしょうか。それとも、神のみことばに疑問を持つ人や、みことばを信じていない人でしょうか。

真理はひとつです。そして、それを見いだすのが私たちの務めです。

どんなテーマやトピックでも、真理を見いだすには、聖書全体を読む必要があると、私は経験から学びました。

みことばを読んでその内容に賛同するだけでは十分ではありません。私たちは、個人の生活で、またここ OIC での教会生活で、それを実践する必要があります。

多くの人にとってそれがなかなかできないのです。

けれども、神は私たちに不可能なことをするようには教えておられません。

神は、すべてのことについてみことばを信頼するようにと私たちを招いておられます。

みことばを信頼すれば、必ず神は報いてくださいます。

パウロは、6 : 11-21 で自身の手紙を締めくくります。

その中で、いくつかのことを成し遂げようとしています。それは今日の学びを進めると明らかになるでしょう。

今日の個所の学びから、次のような問いに答えが出るはずですよ。

1. イエス・キリストの再臨の教理は、現代の私たちの働きをどのように形作り、励ましてくれるでしょう。
2. クリスマスは金銭や財産をどのように用いるべきでしょう。
3. 福音と神のみことばである聖書を守るとはどういうことでしょうか。なぜそれが大切なのでしょうか。

今日の個所は、3 つにわけて学んでいきます。

### **1. キリストの再臨を踏まえて生きる (6 : 11-16)**

パウロはテモテに、自分の現在の立場を確認するようにと語ります。

ここでは、覚えやすい 3 つの言葉を使っています。

「避ける」、「求める」(11 節)、そして「戦う」(12 節)です。

#### **a) 避ける。**

パウロはテモテに、「これらのことを避け」るようにと語りましたが、それは、偽教師とその振る舞いを指しています。

パウロはとくに、偽教師たちが金銭に関して人々に悪影響を及ぼしていることを懸念していました。

パウロは、偽教師たちの傲慢や貪欲も危惧していました。

これは 6 章 4 節に記されています。

パウロはテモテに、偽教師たちとかかわらないようにと命じます。

実際、避けると訳された部分で用いられたギリシャ語の単語 (フューゲ) は、逃げて隠れるという意味です。

神の知恵と教えに従おうとするなら、私たちは偽教師とは一線を引かなくてはなりません。

これは、エホバの証人などのキリスト教のカルトだけではありません。間違った教えを教会に持ち込む人たちがいるからです。

#### **b) 求める。**

パウロはテモテに、違う道を熱心に求めなさいと教えます。

その求める内容として、パウロは 6 つの事柄を挙げます。正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和です。

これらについて、少し時間を取って学ぶのは有益です。聖霊がすべてのクリスチャンにこれらのことを求めておられるからです。

まず、「正しさ」と「敬虔」をひとくくりにしましょう。

これは、神のみことばへの従順に特徴づけられる生き方です。

神のみことばに従うなら、私たちは「正しい」のです。

神は今、みことばにあって正しいことを常にしなくてはならないと私たちに語っておられます。

これは容易いことではありません。けれども、それが正しい道なのです。

テモテへの手紙第一を学び始めて6ヶ月になります。私たちがこの手紙に記された真理に批判的にならずに従うなら、神の目に私たちは正しいのです。

敬虔とは、「神に似た」と訳すこともできます。これは、心のあり方から生み出されます。

神のみこころに私たちの心と願いを明け渡すことです。

そうすれば、神が私たちをとおして働かれるので、私たちは神に似た者となります。

ローマ 12 : 1 は、それが私たちの霊的な礼拝だと語ります。

### **ローマ 12 : 1-2**

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

興味深いのは、心の一新が必要であると2節に記されていることです。それは、この世が常に私たちの思考を汚してくるからです。

思考こそ、真理のために戦う戦場です。

テモテの場合、偽教師たちが人々の思考を汚していました。

パウロは次に、他の書簡と同様に「信仰」と「愛」を並べて語ります。

信仰とは、すべてについて神に全幅の信頼を置くことです。

神の力、目的、計画、備え、約束を信じて、神に忠実を尽くすことです。

信仰に満ちた人とは、神がみことばを成就してくださると信じる人です。

「愛」は、神のアガペーの愛、つまり犠牲的な愛です。

神への愛、他の信徒への愛、そして、イエス・キリストをまだ信じていない人々への愛です。

### **マタイ 22 : 37-39**

22:37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』」

22:38 これがたいせつな第一の戒めです。

22:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

### **ヨハネ第一 4 : 7-11**

4:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

4:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。

神の愛が私たちのうちになければ、神のように愛することはできません。神の愛が私たちをおして周囲の人々に発せられるなら、神のように愛せます。

これは、すべてのクリスチャンにとっての課題です。とくに牧師にとっては、すべての人を愛する必要があるので、大きな課題です。私たちが嫌っている人や、私たちの愛をわかってくれない人を愛するのは、難しいものです。

それからパウロは、「忍耐」と「柔和」について語ります。

忍耐とは、どのような犠牲を払っても、どんな状況でも神に仕える務めに忠実であることです。

ここで柔和と訳されたギリシャ語の単語は、親切や謙虚の意味もあり、新約聖書で登場するのはここだけです。

そのとらえ方は、働きにおける祝福や成果はすべて神が与えてくださるものだとし、自分の手柄だと思わない謙虚さです。

### c) 戦う。

パウロがテモテに命じた3つめのことは、「戦う」です。

これは、相撲の取り組みではありません。

パウロは、信仰の戦いをしっかりと戦うようにとテモテに語ります。

テモテは、手紙の冒頭で勇敢に戦い抜くようにとパウロから命じられています。

#### テモテ第一 1 : 18-20

1:18 私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。

1:19 ある人たちは、正しい良心を捨てて、信仰の破船に会いました。

1:20 その中には、ヒメナオとアレキサンデルがいます。私は、彼らをサタンに引き渡しました。それは、神をけがしてはならないことを、彼らに学ばせるためです。

テモテが直面していた戦いとは、正しい教理を守る戦いでした。

2000年経った今でも、同じ戦いがあります。正しい教理を守る戦いです。

現在、世界各地でこの戦いが継続していますが、この戦いに参戦し、みことばが実際に語る真理を告げ知らせようとするクリスチャンが少なすぎます。

こういうわけで、「アンサーズ・イン・ジェネシス」のような団体が存在するのです。

創世記1章についての真理が教会全般で教えられていないので、このような団体が存在するのです。

過去100年ほどのキリスト教史をご存知の方は、本来なら教会がすべき働きをするために、神がキリスト教団体を起こされたことがわかるでしょう。

教会の教理が自由主義に傾いたり、伝道するために福音を語っていなかったりしたときに、その働きをする人々を神が起こしてこられました。

けれども、本来ならその働きを教会がすべきなのです。

OICの私たちは、ともに信仰の戦いをしっかりと戦いましょう。

正しい教理を守り、そして桜の季節には福音を告げ知らせるために出かけましょう。家庭でも職場でもイエスの証人となりましょう。

私たちが努力するなら、神はその努力に報いて、助けてくださいます。

結局は、すべて神の働きなのでから。

### コリント第一 15:58

ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。

パウロは、避ける、求める、戦うという教えを語り終えると、次に、獲得する、元気を出す、慰めを得る、ことをテモテに教えています。

#### 獲得する。

パウロは 12 節で、「永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。」と語ります。

獲得するとは、しっかり握るとか理解するということです。

テモテは、未来に得る永遠のいのちが何よりも大切なものであり、それをしっかり握っているべきであることを理解しなくてはなりません。

私は 2 週間前にある祈りの支援者からメールをいただきました。その女性は昔、お医者さんでした。34 年ほど前から私たちの支援者です。

メールには、彼女がガンで余命 4-6 週間だとありました。この素晴らしい女性は 60 歳くらいですが、この世の命にしがみつかず、永遠のいのちをしっかりと握っています。

彼女の心の中ではとっくの昔にこの世の命を手放していましたが、今、それを現実のものとして体験するのです。

皆さんにお尋ねします。

あなたは今、何にしがみついていますか。

仕事、家族、お金、友人でしょうか。

それとも、永遠のいのちをくださるイエスにしっかりとしがみついているでしょうか。

神のみことばに従い、イエスの導きについていかななくてはならない状況になったとき、私たちの信仰が試されます。

イエスに従ってついていく気がないなら、何かが私たちを縛っているということです。

#### 元気を出す。

パウロはテモテに、元気を出すようにと励まします。イエス・キリストがおられるからです。そして、イエスがすべてを経験してくださったからです。

神がすべてのものにいのちを与えてくださるお方であることも、テモテが励まされるべきもうひとつの理由です。

テモテが死ぬべき時も、死からよみがえるべき時も、神が定めてくださるでしょう。

私たちも元気を出しましょう。神がすべてのものにいのちを与えられるお方だからです。

#### 慰めを得る。 (14-15 節)

たいていの赤ちゃんには、自分の好きなおもちゃや毛布など、気分を落ち着かせてくれるものがあります。

赤ちゃんから始まって、8-9 歳ごろまで同じもので気分が落ち着くようです。

そういうぬいぐるみを一生大事にする人もいます。

私は子どものころに気分を落ち着かせてくれるぬいぐるみやおもちゃがありませんでした。

数年前にそのことを娘のカリスに話すと、くまのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。

今では双子の孫ダニエルとジョサイアがおじいちゃんのくまちゃんと言っています。いつもスカイプするとき私が持っているからです。

なぜこんな話をするかと言うと、私たちにとって気分を落ち着かせてくれるはずのものは、イエス・キリストの再臨だからです。

ぬいぐるみを抱っこするよりもずっと落ち着きませんか。

イエスがいつの日か戻ってこられ、すべての信徒を死からよみがえらせてくださるのです。

そして新しい地を造り、私たちはそこで罪とその罰に苦しむことなく永遠に過ごせるのです。

そう確信できたなら、生きるのがつらい時も慰められるでしょう。

## 2. 未来が現在を形作る。(17-19 節)

パウロは 17-19 節で、永遠を視野に入れて、現在の生活を形成すべきだと説明します。私たちの人生に福音のメッセージがどれだけ根付いているかを試すのは、多くの場合金銭面です。パウロは、私たちのお金の使い方やお金に対する姿勢で、私たちの福音の理解をはかることができますと言います。

多くの場合、教会の財政から教会員が福音をどれだけ真剣にとらえているかが読み取れます。パウロはすでに、偽教師たちのお金に対する考え方を明らかにしました。

そして今度は、テモテがお金に対して正しい姿勢であることを確認したかったわけです。

パウロは 17 節で、教会の裕福な人にふたつのことをするように命じるようテモテに教えます。裕福な人は貧しい人を見下す傾向があり、お金があるからという理由で優越感を覚える誘惑にかられます。そうすると、傲慢になる危険性があります。

裕福な人が謙虚な心でいるのはとてもむずかしいのです。

テモテは、謙虚な心を求めてお金をたよりにしないようにと裕福な人に命じなくてはなりません。お金持ちだと、神よりも富に頼ってしまう危険性があります。

**箴言 11:28** 自分の富に拠り頼む者は倒れる。しかし正しい者は若葉のように芽を出す。

愚かな金持ちのたとえで、イエスは富に頼る愚かさについて警告しておられます。

### ルカ 12 : 16-21

12:16 それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。

12:17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』

12:18 そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。』

12:19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』

12:20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

12:21 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

18 節でパウロは、裕福な人々にお金の使い方を教えるようにとテモテに命じます。

お金持ちの信徒の務めは、その財力を使って、人々の必要を満たすことです。

使徒パウロは、その務めについて 4 つの言葉で表現しています。

### 「人の益を計り」

原語のギリシャ語を読むと、心を込めてそうしなくてはならないことが明らかです。崇高で優れた行いをすることを意味します。

つまり、裕福な人は、自分の財産を賢く使って、他の人たちに益をもたらす良いことを純粋な心でしなくてはなりません。

私が裕福だったら、日本でできることがたくさん思いつきます。

心のあり方から実践へと話が進んでいます。

### 「良い行いに富み」

これは、キリスト教のプロジェクトや働きの具体的な必要が完全に満たされるために、気前よく施すことです。

もちろん、私たちはまず自分の家族を養わなくてはなりません。そして、教会内の寡婦など本当の困窮者を助けなくてはなりません。

けれども、それらの必要が満たされてもなおお金があるなら、神が与えてくださった豊かな備えからささげなくてはなりません。

私たちの神は、気前のよいお方です。ですから、私たちの喜びのためにあらゆる恵みを豊かに与えてくださいます。

### 「惜しまずに施し」「喜んで分け与える」

裕福であつたり、必要以上のものを持っていたりするなら、それは神からの賜物です。それは、必要のある人たちに分け与えて、神の栄光のために用いるためです。

もちろん、世界の貧困問題を解決できるわけではありませんが、聖霊が導いてくださる相手の必要を満たすことはできるでしょう。

惜しまずに施すとは、施しについての聖霊の導きを敏感に察知できることです。

どんな企画でも、どんな人でもお金を求められたらあげるという意味ではありません。

ささげるにふさわしい尊い働きの中には、公に分かち合わないものもあります。

誰かが個人的に祈り、聖霊がその祈りを聞き届けて、何らかの形で祈っている人たちに示してくださるのです。

19節でパウロは、自分の富を適切に扱った結果について考えるよう裕福な人たちに勧めます。

この世で富を分かち合っても、彼らはこの世でその投資に対するリターンを得ません。

けれども、天国に行ったときに投資リターンを得られます。

永遠のために投資する裕福な人たちは、福音のメッセージをちゃんと理解しているのです。

### 3. 真理を守るために今をどのように生きるべきか。(20-21 節)

まず、米国で尊敬されている説教者の言葉を引用します。

43年間も神のみことばを忠実に語ってきたジョン・マッカーサーという人物です。彼は、聖書を1節ずつ語りますが、新約聖書のすべてのみことばをこれまでの説教で語っています。これは、20-21節について彼が語る説教の冒頭部分です。

「長い歴史上、本物の教会は、外からの迫害や教会内の偽りの教えによる見えない攻撃のただ中で、真理にしがみついてきました。

無数の人々が神のみことばの尊い真理を捨てることも妥協することもせず、死という究極の犠牲を払い殉教者となりました。

現代の教会は、先人たちから真理の遺産を受け継いでいるのです。

ですから、真理を守り、告げ知らせ、混ざりけのない純粋な真理を次世代に伝えることが私たちの責務です。」

現代の風潮では、究極の真理というものは存在せず、自分が満足ならそれが真理だと声を大にして宣言します。

この世俗的な考え方が浸透し、教会にも入り込んでいます。

マッカーサー師はつづけます。

「神に対するもっとも深刻な罪とは、神の啓示の取り扱いを誤り、偶像のような間違った神のイメージを世間に与えてしまうことです。」

私自身の考えをここで分かち合わせていただきます。世界中のクリスチャンにとって最大の危険は、みことばの真理を教えない聖書学校や神学校の教師たちです。

このような人々は、聖書の真理をごまかし、現代社会に許容される内容にすり替えます。

聖書の教えは、畏敬の念をもって慎重に受け止めなくてはなりません。神がご自身を啓示される書物だからです。

**詩篇 138:2** 私はあなたの聖なる宮に向かってひれ伏し、あなたの恵みとまことをあなたの御名に感謝します。あなたは、ご自分のすべての御名のゆえに、あなたのみことばを高く上げられたからです。

**詩篇 119:161** 君主らは、ゆえもなく私を迫害しています。しかし私の心は、あなたのことばを恐れています。

**イザヤ書 66:2** これらすべては、わたしの手が造ったもの、これらすべてはわたしのものだ。  
——【主】の御告げ——わたしが目を留める者は、へりくだって心砕かれ、わたしのことばにおののく者だ。

## まとめと適用

テモテへの手紙第一の学びはこれで終わりです。今回の学びで、私たち全員にあてはまる一番大切な教えは、教会内の偽教師に立ち向かい、神のみことばを守り、信じることです。私たちは、自分自身の日常生活や教会の中で真理を守るしかありません。では、どうすればそうできるのでしょうか。

まず、聖書をよく知り、救いの福音をしっかりと理解することです。新約聖書の書簡の大半は、間違った考え方を正し、福音の真理を理解するために、パウロが記したものです。

次に、聖書の教理を学ぶことです。教理とは、あらゆるテーマに関する聖書の教えです。私が今も愛用している聖書教理の本は、100年以上前の1912年にムーディ聖書学院から出版されたものです。（「聖書の重要教理」ウィリアム・エバンズ著）

第三に、現代社会で流行っている偽りの教えを知り、聖書を用いてその偽りの教えから自分を守ることです。ひとつできることは、教会規則の中にある信仰声明をもっと具体的にすることです。創造や同性婚をはじめ、神のみことばが教える真理を明確にするあらゆる問題について、具体的に示す必要があります。

現代の偽りの教えのひとつに、「有神的進化論」というものがあります。これは、進化論を支持しつつ、クリスチャンでもありつづけようとする方法です。これは間違った偽りの教えですが、それだけでなく、米国の若者が教会を離れる主要因となっています。

ですから、私たちは真理を学び、信じ、日常生活にあてはめて生き、誤りから真理を守りましょう。そのためには、神の助けが必要です。